

太陽光発電システム稼働

本社工場の屋上に888枚 最大出力185kWのパネル導入

(株)クロダ

独自のノウハウを有し、高品質な産業用プレス梱包機械を製造する(株)クロダ(高松市香南町西庄一七八九黒田史郎社長が、同社本社工場に太陽光発電システムを導入した。

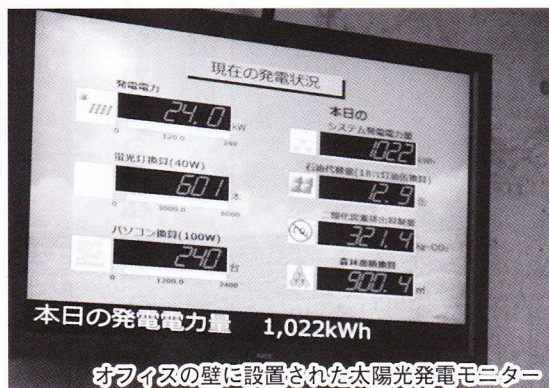
導入されたのは、1枚あたりの公称最大出力が208・4W/hの京セラKS2084P-3CJCA形式の太陽電池モジュール888枚。鉄骨造一部3階建て、延べ床面積約8400平方メートルの本社工場屋上の三分の一程度を占めている。

最大出力は185KW/h。これは、同社の契約容量195KWが目安になった。設置する太陽光発電の規模は、余剰電力買い取り制度の現状では、契約容量を超えることはできない。これにより、自社の太陽光発電で、日中の工場稼働に必要とする電力の一部を賄う。年間発電量は推定約十九万七千KW。一般家庭に置き換えると約62世帯分、年間のCO2削減量は約98・6トンになる。

設置会社は高松の大豊産業(株)(屋島西町一九〇二一 乾 篤之社長)。1月から施工を始め、3月上旬

に完成、3月15日より運転を開始している。総事業費は約七千万円。内、高松市の「太陽光発電システム設置補助制度」により、二百万円の補助を受けた。併せて「エネルギー需要構造改革推進投資促進税制」(3月末で終了)により、取得額の全額を初年度に即時償却する選択をした。また余剰電力買い取り制度において、10年間40円/kWで売電できることから、設備投資の回収は10年程度になる見込みだ。

4月以降無くなることから、今回のタイミングでの導入に至った。同社では、買い取り価格についての国の方針が決まった時点で、追加設備の導入も検討したいとしている。



オフィスの壁に設置された太陽光発電モニター



本社工場屋上に設置されたパネル

「弊社は圧縮梱包機やその関連機器など、いわゆる環境商品の製造・販売を行っています。数年前にISO

なお、今7月に開始予定の再生可能エネルギーの全量買い取り制度についても視野に入れて検討したが、買い取り価格が決まっていないうと、初年度即時償却ができる税制が

90001と140001を取得しましたが、環境機器メーカーとして、環境への先駆的な取り組みを模索する中で、2・3年前から太陽光発電設置の構想を持ちました。まずは自分達が率先して、環境に優しい事業活動に取り組んで行きたいと思っています。」(廣重取締役)

同社では従来から、社内的な環境意識や節電への関心を高めており、今回の太陽光発電システム導入にあたり、社員からよく見えるオフィスの壁に、太陽光の発電量をわかりやすく身近指標に換算した太陽光発電モニターを掲示した。

しかし、一般住宅用にあるような消費電力がわかる項目が、現在の産業用モニターにはないため、この導入も積極的に行いたいと考えた。住宅と同じで『見える化』をしないと語る。消費電力を意識つけることで、業務に支障のない範囲で節電し、省エネ、コストカットに繋がっていききたいとしている。

晴天が多く、日照時間が全国6位の香川県。そのため太陽光発電システムの普及率も全国の上位に位置するが、一般の住宅用に比べて、非住宅用はまだまだ設置件数が少ない。

県環境政策課の調べでは、非住宅用の県内民間施設での平成23年度導

入数は、65施設で平均49kW。高松市でも、平成23年度における一般住宅の施工数が一千六十二件に対し、非住宅用は十四件。(株)クロダのような大規模なシステム導入は、先駆的なケースであるといえる。

地球温暖化、エネルギー枯渇が深刻化し、現状維持が困難な課題多き現代。太陽光発電の導入は、地球温暖化対策、エネルギーのセキュリティ対策にもなる。そんな時代を背景に、環境を視野に入れた企業展開で社会的責務と事業活動を両立させ、循環型社会に寄与する(株)クロダの取り組みは、時代に即した企業経営モデルの1つとなってくれそうだ。